
水稲の育苗と スクミリンゴガイ対策

飯塚普及指導センター
JA直鞍

育苗で行うこと

床土作り

種子消毒

浸種・催芽

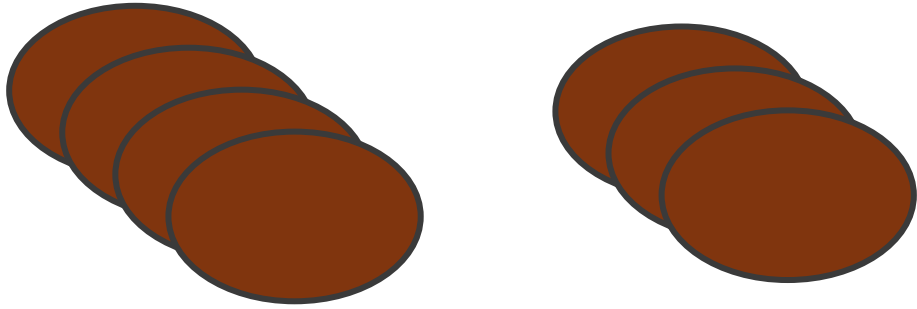
緑化

病害虫
防除

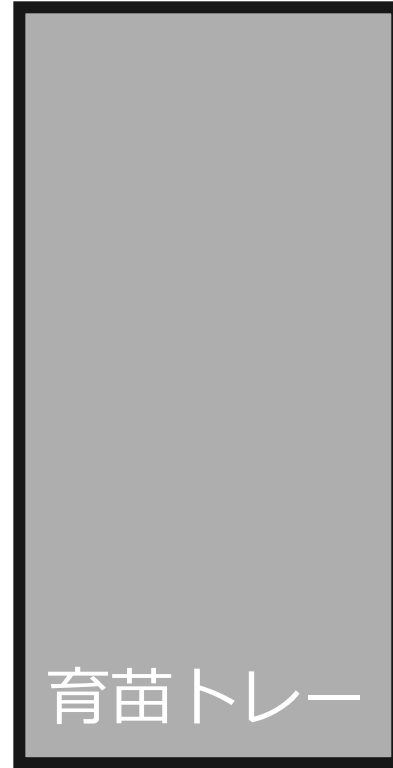
- 健苗を育成することは、移植後の水稻の生育に非常に重要
- 種子消毒の徹底で、本田への病害虫の持込リスクを下げる

土の準備

<みのりエースや黒粒培土の場合>

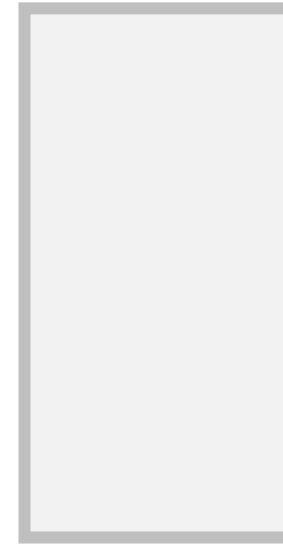


床土 2.0kg 覆土 1.5kg

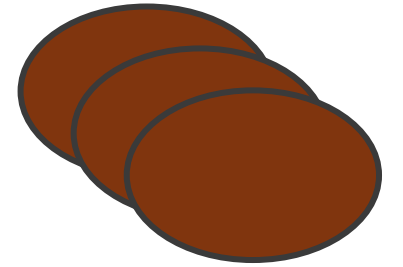


育苗トレー

<コメパワーマットの場合>



コメパワーマット



覆土 1.5kg

- 床土2.0kg + 覆土1.5kgが目安
(育苗箱1箱当り)
- 昨年開封した残りはなるべく使用しない
(カビ等が発生しやすい)

- 十分マットに吸水させる
吸水が不十分な場合、発芽不良になる
- 覆土 (みのりエース) は、
育苗箱1箱当り1.5kgを目安に別途用意

種子消毒（通常）

種子伝染性の各種病気とイネシンガレセンチュウ対策のため、**必ず実施**する

- ・もみ枯細菌病
- ・苗立枯細菌病
- ・褐条病
- ・いもち病
- ・ばか苗病

《通常の場合》

テクリードCフロアブルとスミチオン乳剤を混用して種子を24時間薬液に浸漬
その後、そのまま浸種する

農薬名	倍率	種子10 kg・水20 ℓに 対する薬量
テクリードCフロアブル	200 倍	100 ml
スミチオン乳剤	1,000 倍	20 ml

種子消毒（いもち病重点）

種子浸漬処理

テクリードCフロアブルとスミチオン乳剤にベンレート水和剤を加え、3種混用して種子を24時間薬液に浸漬

風乾

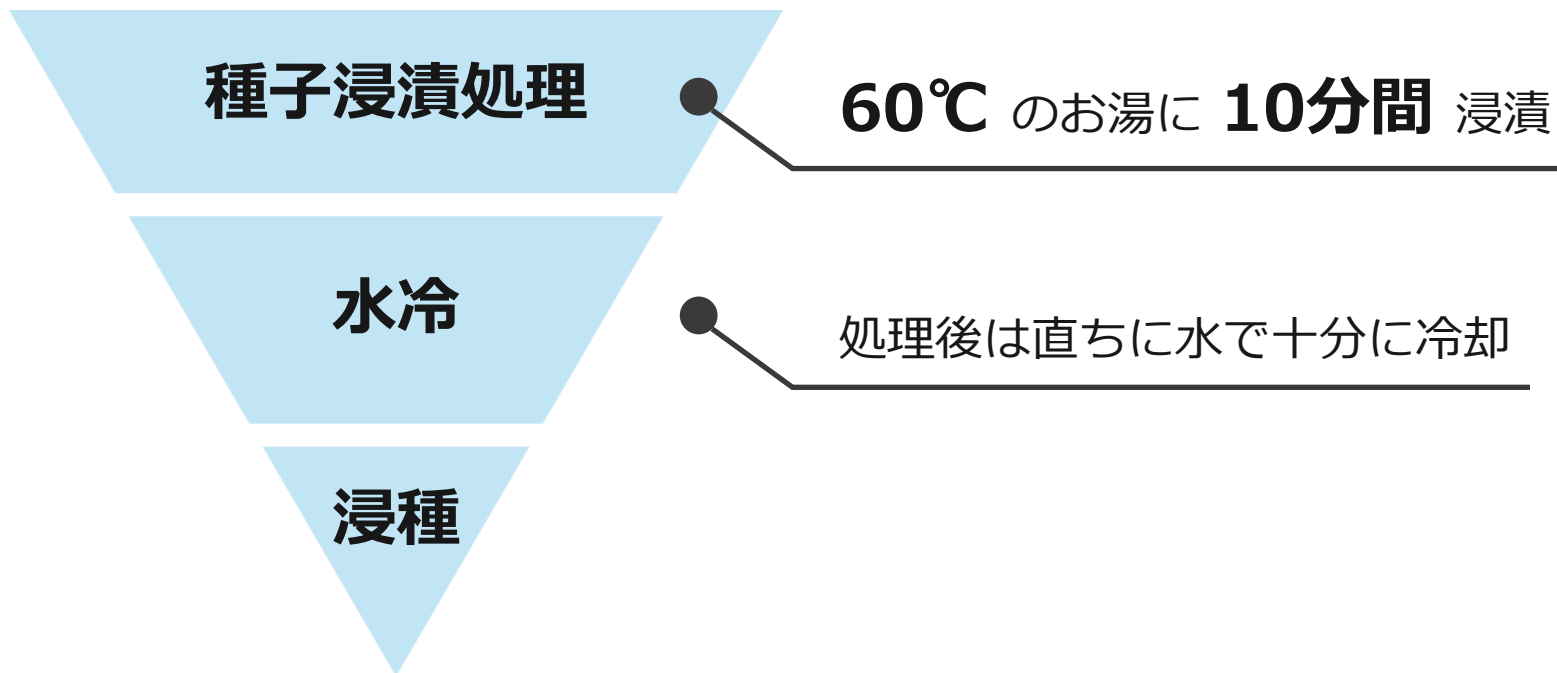
半日程度、風乾を行う

浸種

農薬名	倍率	種子10 kg・水20 ℓに 対する薬量
テクリードCフロアブル	200 倍	100 ml
スミチオン乳剤	1,000 倍	20 ml
ベンレート水和剤	1,000 倍	20 g

温湯消毒の場合

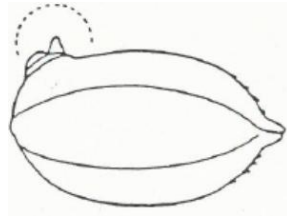
ふくおかエコ農産物認証を取得の方は**必ず温湯消毒**を実施する！！



注意事項

- ・ 1度に大量の籾を処理すると、温度が低下して効果が劣る
- ・ 小分けにして袋内部も60℃の温度で均一となるようにする
- ・ 籾袋の中心は温度が上がりにくいため、袋を動かして中まで均等に温度がかかるように工夫する

浸種・催芽について



ハト胸状態の籽
(幼芽長0.5~1.0mm)

浸種

・・・ 種籽を水に漬けて十分に吸水させる

催芽

・・・ 芽をわずかに出させる

効果

出芽が安定し、育苗時の初期生育が良くなる
浸種の目安は、種子消毒の時間も含めて、**“ 積算水温100℃ ”** 程度

実践例 A.1日の平均水温が10℃なら10日程度 ($10^{\circ}\text{C} \times 10\text{日} = 100^{\circ}\text{C}$)

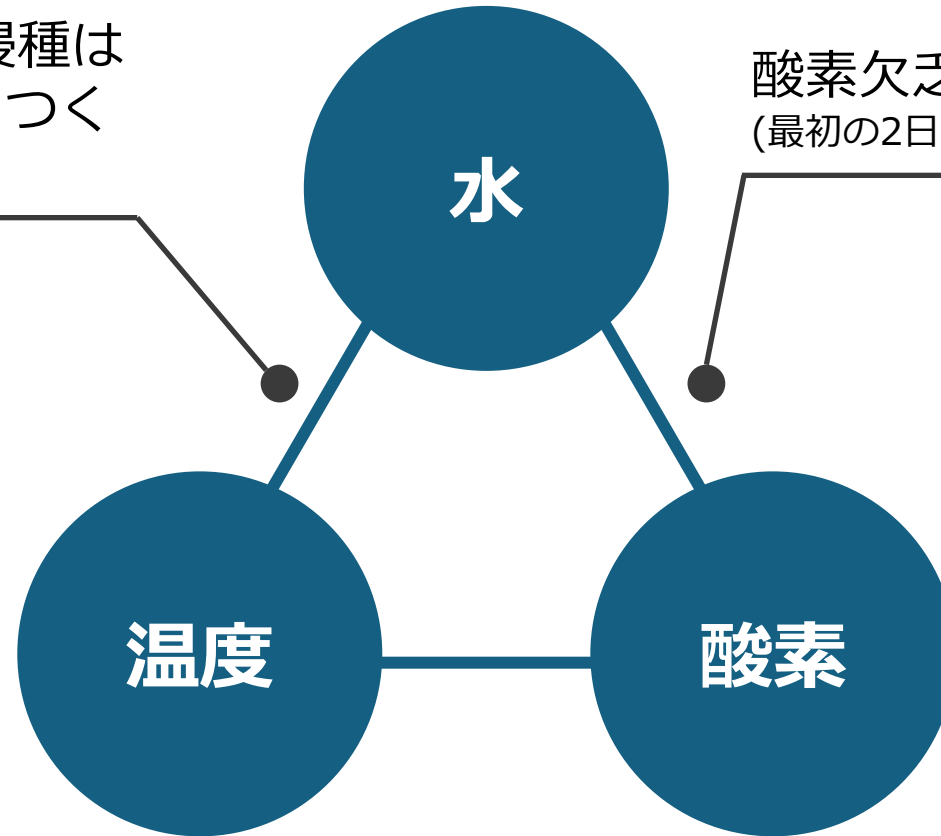
B.1日の平均水温が15℃なら7日程度 ($15^{\circ}\text{C} \times 7\text{日} = 105^{\circ}\text{C}$)

- ・ 浸種して積算水温100℃となり、僅かに芽が出たら水揚げし、催芽を兼ねて1日程度水切り
- ・ 7割以上の種籽が、わずかに芽が出ている状態になっていることが理想。

浸種・催芽のポイント

高い温度（20℃以上）で浸種は
種子休眠の差で催芽がバラつく
水温は15℃前後で行う

酸素欠乏をなくするため、水は定期入替
(最初の2日間は取り替えず、その後は1日1回取り替える)



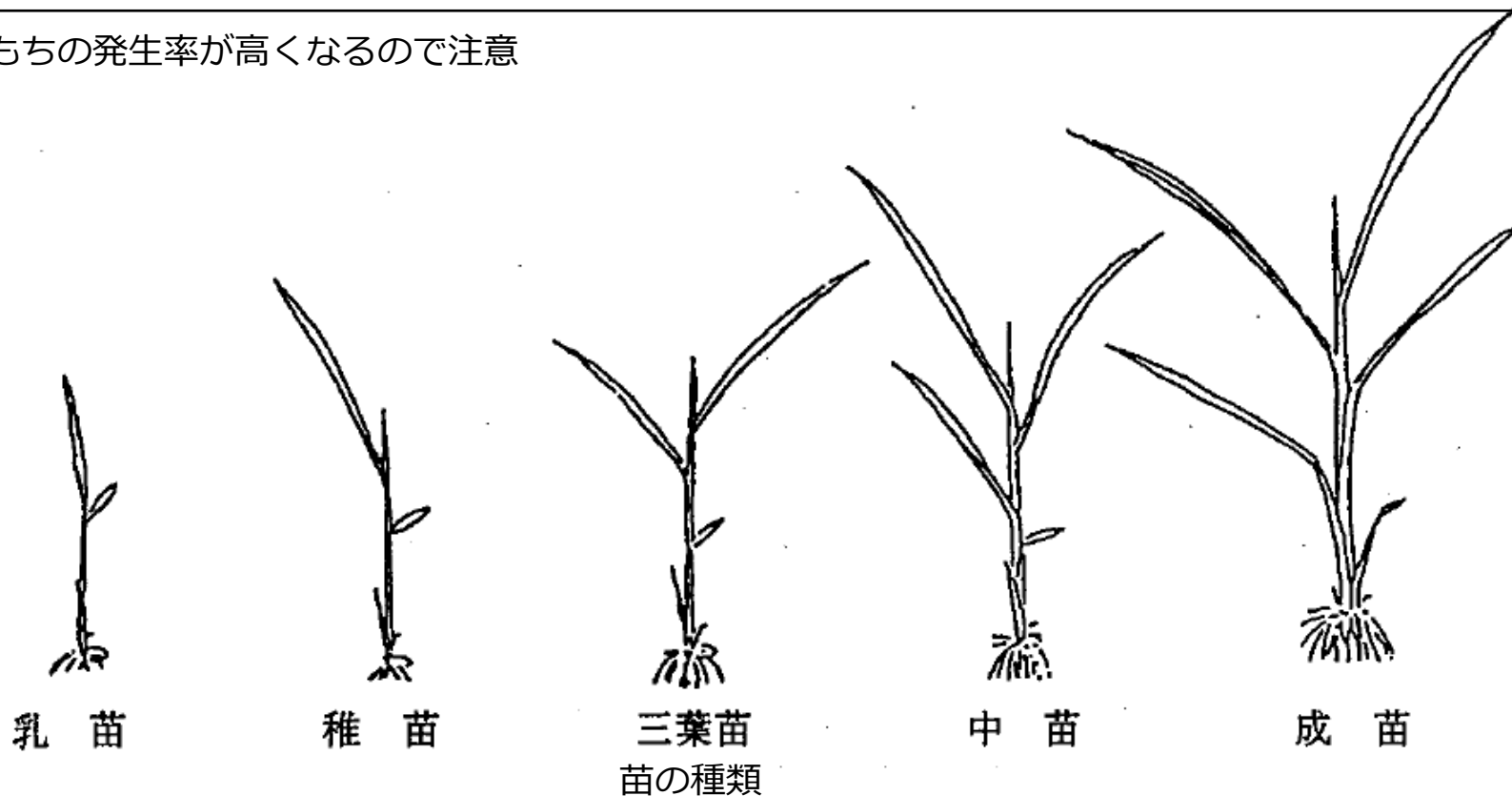
発芽の3要素

～ 急遽、田植えまでの日数が延びてしまった場合 ～
十分に水を切った後に冷蔵庫で保管することで、1週間程度は状態を維持することができる

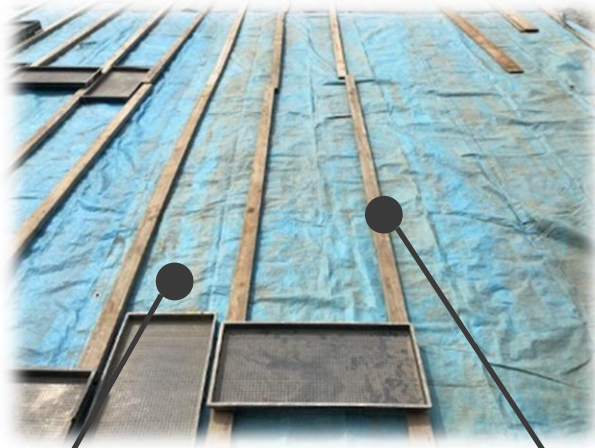
播種について

苗の種類	目標葉齢	播種量/箱		育苗日数の 目安	箱数/10a
		乾粃	催芽粃		
稚苗（標準）	2.1 ~ 2.5	150 g	180 g	20日	18箱
三葉苗	3.1 ~ 3.5	120 g	150 g	25日	20箱

※ 育苗後半には苗いもちの発生率が高くなるので注意



出芽・緑化について



りん木を敷いた苗箱の並べ方

苗箱縦 1 箱分の隙間を作り通路にする

りん木を敷いて育苗箱の下に隙間を作る

平床出芽に関する管理のポイント

- ・ 日当たりの良い水平なところに育苗箱を広げ、太陽シート等の被覆資材をかける
 - ・ 育苗箱の下にパイプやりん木を敷く事で、過剰水分を早期に除去（下図）
 - ・ 降雨等で太陽シートの上に水がたまったら、早期に水を除去（発芽不良リスク）
 - ・ 第一葉が展開（葉齢 1.2）し、苗長が（稚苗） 5 cm ・ （三葉苗） 3 ～ 4 cm のタイミングで被覆資材を除去
- ※ " 元気つくし " は " 夢つくし " より苗が伸びやすいため、1日程度早く資材を除去

灌水のポイント

- ・ 灌水は覆土の表面が乾いたら十分行う
- ・ 午前中の灌水とし、夕方は避ける（根が伸びにくくなる）
- ・ 風が強い日は角が乾燥するため、乾かないように灌水する

早期栽培の育苗

早期栽培は低温条件下での移植となる

- ・ 苗の良否が収量に大きく影響
- ・ 普通期栽培以上に健苗育成に努めることが重要

緑化

- ・ 積重ね出芽
出芽後ハウス内で箱を一面に広げ、
被覆資材で被覆（ベタ張りかトンネル）
- ・ 平床出芽
出芽～緑化期まで継続して被覆
被覆資材の除去時期→葉齡1.2葉、苗長4～5cm程度

注意点：ハウス内での育苗で光透過性の大きいビニール（シルバーポリフィルムでも遮光率小のものを含む）等をベタに被覆すると高温障害の危険性
被覆資材は昼間の温度上昇効果と夜間の保温効果を併せ持つものが適する
例．白色発泡スチロールフィルムの上に黒色不織布（黒色ラブシート）を被覆

硬化 及び 馴化

- ・ ハウスやビニール内の温度が25℃以上にならないように
ビニールで開閉管理
- ・ 寒風に遭わないよう注意
- ・ 移植3～5日前にハウス外へ搬出するか、
ビニールを除去して馴化

病害虫防除

※ふくおかエコ農産物認証を取られた方は成分回数制限に気を付けましょう！！

農薬名	適用病害虫	使用方法	使用時期	成分数
ナエファイン 粉剤	苗立枯病	育苗箱一箱当たり 6～8 gを床土に混合	播種前	1
ナエファイン フロアブル	ムレ苗	1000倍液を 一箱当たり500ml灌注	播種時	1

箱施薬を施用する際は、1キロ粒剤の除草剤と間違わないように注意！

農薬名	適用病害虫	使用方法	使用時期	成分数
防人箱粒剤	いもち病、ウンカ類、 コブノメイガ			3
スクラム箱粒剤		育苗箱1箱 あたり50g	播種時（覆土前） ～	4
ブーンハーデス 箱粒剤	いもち病、ウンカ類、 コブノメイガ、紋枯病		移植当日	4

スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）について



卵塊

和名：スクミリンゴガイ

分類・形態

- ・成貝は殻高 2 ～ 7 cm程度
- ・殻の色は黄褐色～黒褐色（黒に近い個体も）
- ・濃いピンクの卵塊があれば生息している
- ・寿命は 2 ～ 3 年



成貝

- ・本貝は水草そのものを摂食する
- ・特に柔らかい植物を好み、稲（田植え直後の稚苗）やレンコン（幼葉）を食べる
- ・水中にあるものしか食べることができない
→若い稲の葉を水中に引き込んで食害
- ・接食活動は水温15～35℃で行う
- ・14℃以下では活動を休止し、休眠（越冬）する
- ・稲は3～4葉期までが食害されやすく、5葉期以降はほぼ食害されない

スクミリンゴガイの防除

1. 冬期の圃場耕起 (厳冬期：1月中～下旬)

- ・トラクター爪による貝の破碎と寒ざらしによる殺貝

2. 水田への侵入防止

- ・取水口に10～15mm編み目の網を取り付ける

3. 貝の捕殺

- ・代かき後、浮上してくる貝を田植えまでに2～3回捕殺
- ・移植2週間後まで定期的に捕殺

※野菜くず、少し硬めのタケノコを畦畔沿いに置き誘因すると捕殺が楽

4. 卵塊の捕殺

- ・密度増加の抑制
- ・分布拡大防止

5. 苗質と水管理

- ・中苗を植える
(普通期30日以上苗、早期40日以上苗)
- ・田植え後の浅水管理（水深1cm）
※田面の均平化が必須

6. 薬剤防除

- ・スクミンベイト3を処理
(田面の低い水がたまる場所に)

移植時の対策

こまめな水管理

- ・水深4cm以下を維持することで摂食抑制
- ・降雨により水位が上昇すると本害による食害助長
- ・除草剤を処理した際の効果が低下し雑草発生リスク増加

浅水管理の時期

- ・浅水管理は移植後3週間まで行う
(5葉期ごろを超えると食害を受けにくい)

田面は均平にする

- ・凹凸があるほ場では田面の深いところで貝が活動しやすく集中的に食害が生じる
- ・冬季のレーザーレベラーの利用や田植え前の代かきを丁寧に
→圃場の傾斜や凹凸をなくすることが重要

その他

- ・コンバイン操作時の切替しが乱雑だとほ場の凹凸を生み出しているケースもあるため注意
- ・地域内でレーザーレベラーを共同利用する際は発生圃場での作業後は洗浄を徹底
→未発生ほ場への持ち込み防止

スクミリンゴガイ対策と田植同時処理除草剤の間違った使い方

食害を避けるために田植後入水しなかったら.....

田植後の植穴の
戻りが悪いまたは戻らない

除草剤の成分が
直接苗の根に当たる

薬害が発生

田面に亀裂が生じ、水持ちが悪くなる

初中期除草剤の効果が劣り、雑草多発
肥料の流亡が多くなる

生育量が不足

いずれの場合も減収リスク増加

入水・こまめな水管理で対応

次作に向けて

天気や気温は変えることができない

気象変化に強い米づくりが重要

苗半作でスタートダッシュをよろしくお願いします！

- ① 良い苗づくり
- ② 土づくり
- ③ 適正な肥培管理（過繁茂にしない）
- ④ 適期に適切な防除（雑草、病害虫）
- ⑤ 適切な水管理
- ⑥ 適期収穫